

林 柁次郎（はやし・まさじろう）

1、プロフィール

新聞や雑誌の編集者としての実績もあるが、スキーヤー愛唱の「シーハイル」など優れた作品を残した歌人。

<生没>

1898(明治 31)年1月 19 日 ~ 1978(昭和 53)年 10 月7日

<青森との関わり>

五所川原に生まれ、東奥日報社の通信員や本社役員として勤務した。

2、作家解説

本名は柁次郎、董夢とも号した歌人。明治 31 年に現在の五所川原市平井町に、旅館業林吉五郎とタキの二男として生まれた。青森商業学校に入学したが肋膜炎で卒業直前に退学、東奥日報五所川原通信部に勤務した。大正8年に宮本ちかと結婚。本社文化部長や論説委員、監査役、「月刊東奥」編集長などを歴任。昭和 21 年からは後進に道をゆずり、「青森農業」編集長となったが、紙面の刷新に努力をした。

林柁次郎は商業学校在学中から短歌や俳句を作ったが、五所川原に帰ってからは、短歌の盛んな土地柄もあって精力的に制作をしては「文章世界」や「アララギ」などの中央誌と、「素描」「独白」「はまなす」などの地方誌に投稿した。五所川原農学校スキー部監督として「シーハイル」の作詞をしたのもこの頃であった。

多くの地方同人誌に関係し、大正 14 年には上見仙吉らと五所川原短歌会を結成するなどの活躍をし、晩年には潮汐青森支部にも参加した。しかし、潔癖な性格から「結社に深入りをしない」「歌集は作らない」という自己制御的信念を通した歌人でもあった。温順で、他人をおもいやる心の厚い人だったので、その作品には透徹した心境のうかがえる佳作も多いが、残念ながら歌集はない。